

## &lt; 運営推進会議における評価\_様式例 &gt; ※公表用

## 【事業所概要】

法人名	医療法人 ナカノ会	事業所名	ナカノ看護小規模多機能型居宅介護事業所
所在地	(〒890-0008) 鹿児島市伊敷3丁目14番8号		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の状況に応じて医療・看護・介護の連携を図り迅速に対応することで利用者・家族の安心感に繋がっています。</li> <li>・医療ニーズの高い利用者を介護と看護の両面からサポートし24時間、365日切れ目のない体制で安心して生活が送れるよう取り組んでいます。</li> <li>・家族・医療、介護スタッフ間で利用者の情報共有を図るためにタイムライン形式による情報共有システム(MCS)を活用している。</li> <li>・コロナ感染対策を図る中、オンライン会議・オンライン、窓越し面会スタイルをとり運営している。</li> </ul>
--

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 2 月 1 日	従業者等自己評価 実施人数	( 31 ) 人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	----------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2021 年 3 月 9 日	出席人数 (合計)	( 18 ) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (8人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (0人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2人) <input type="checkbox"/> 利用者 ( 0 )人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (2人) <input type="checkbox"/> その他 (4人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>・20名の入居者や外部利用者含め、サービスが施設内で提供されることがほとんどであり、今後も感染対策を十分に講じていく。</p> <p>・コロナ禍でも効果的な介護技術向上への研修体制（人事考課：個別研修計画にそって） スタッフミーティングと法人運営会議の連携強化を図る BCP（災害時、コロナ感染）作成</p>	<p>1年間の利用者実人数 37名 登録数 29名 定員に対して平均 25.5名で稼働（88%）運用あり。体調面介護面の理由で事業所変更を緊急に行い疾病問わず対応した。 その中で、6名の看取りがあった。 コロナ感染対策を中心に利用サービスの柔軟な対応と感染対策を講じて感染者発生には至っていない。 職員研修もハイブリッド研修スタイルなど選択しながら参加できた。 BCP に関しては見直しを行いながら実情に応じて対応できた。</p>	<p>コロナ禍で訪問することができず直接はわからないが、文書による詳細な報告ができていて多くの事業所がまだ定めきれない状況も多いと感じているが、その策定も繰り返し行われいざというときのための職員間への意識づけも周知できており感心した。</p>	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p>	<p>今後もコロナ禍でも十分にサービス提供者スタッフと家族等の連携を図り不安なく療養していただく。面会の工夫やレクレーションの在り方など個別に柔軟な対応を図り変化に応じた介護・看護を継続していく</p> <p>連携ツールは様々なものを活用し情報提供、連携を定着させていく</p>	<p>コロナ禍でも地域の実情に応じて家族や関係者との面会や連携を行い病状説明と意思確認と方針決定につなげられた。コロナ禍になり日頃から ZOOM や MCS などのツール活用し療養の様子を報告できた。そのような中でケアの在り方においてはわかりやすい説明を心掛け、同意をいただき家族の安心に繋げていくことができた。</p> <p>新たな評価（LIFE）や転倒リスクマネジメントを強化できた。 事故発生時の初期対応についても各自が認識でき家族への信頼構築に繋がっている。</p>	<p>周囲の支援者で支援の方向性が異なると困惑するのは当事者になるので、利用者家族の思い状態を確認し対応がなされることで利用者本人にとって居心地のよい居場所に繋がると思う。 コロナ禍でも家族との連携を図るよう気遣ってくださってありがたいです。 利用者の状態変化にスタッフ皆さんが見守っている様子がわかります。</p> <p>コロナ禍でも支援者間での情報共有の連携についてとても長けていると感じる。 スタッフの皆さんが日頃から情報共有に取り組んでおられると感心しています。</p>

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)</p>	<p>活動自粛制限の中、地域近隣住民への広報・啓発活動が充分とはいえないが、今後の地域の状況に応じて進めていく</p>	<p>今年度も運営推進会議は開催できず、文書報告を行い活動内容などへのご意見やご助言をいただける仕組みとした。 地域の感染状況をみて地域活動も控えていた</p>	<p>ホームページは充実しておりとても分かりやすい 地域清掃活動報告は写真付きでたいへんわかりやすい。感謝している引き続き取り組んでほしい</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42~44)</p>		<p>満足度アンケートからの課題への取り組みとして 食支援(経管栄養中でも食べる楽しみ) 移送時の安全対策の強化 コロナ禍での各機関との連携の工夫と強化 介護報酬改定に伴う諸手続きの円滑な対応</p>	<p>多職種連携し胃瘻注入から経口摂取への取り組み実績もあった。 移送中にけるマニュアル強化が図れ予防ができた。 報酬改定への利用者家族への説明と同意も円滑にでき、評価ツールに繋がられている。</p>	<p>全体的に積極的な対応がなされていると思う。 家族にとっても重症化、終末期における医療と介護の密な連携を望みます。</p>

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<p>1年間の利用者実人数37名 登録数29名定員に対して平均25.5名で稼働(88%)運用あり。体調面介護面の理由で事業所変更を緊急に行い疾病問わず対応した。その中で、6名の看取りがあった。</p> <p>コロナ感染対策を中心に利用サービスの柔軟な対応と感染対策を講じて感染者発生には至っていない。</p> <p>職員研修もハイブリッド研修スタイルなど選択しながら参加できた。</p> <p>BCPに関しては見直しを行いながら実情に応じて対応できた。</p>	<p>運営基準など各職員の理解を深め、コロナ禍においても事業継続計画に基づき運用していく。</p> <p>29名登録数での稼働率を95%に上げる。</p> <p>医療的ニーズの高い緊急枠としても運用できるように計画していく。</p>	
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p> <p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)</p>	<p>コロナ禍でも地域の実情に応じて家族や関係者との面会や連携を行い病状説明と意思確認と方針決定につなげられた。コロナ禍になり日頃からZOOMやMCSなどのツール活用し療養のご様子を報告できた。そのような中でケアの在り方においてはわかりやすい説明を心掛け、同意をいただき家族の安心に繋げていくことができた。</p> <p>新たな評価(LIFE)や転倒リスクマネジメントを強化できた。</p> <p>事故発生時の初期対応についても各自が認識でき家族への信頼構築に繋がっている。</p> <p>今年度も運営推進会議は開催できず、文書報告を行い活動内容などへのご意見やご助言をいただける仕組みとした。</p> <p>地域の感染状況をみて地域活動も控えていた</p>	<p>現状にとらわれず利用者の状況や思いまた家族の体調介護負担等を考慮しながら柔軟に対応していく。</p> <p>状態変化に早い段階で気づきサービス変更等の対応ができるよう日頃の情報共有の在り方を強化する</p> <p>利用者の状況に応じて適宜サービス関係者とカンファレンスを通して状況把握し全員が情報共有できる体制を強化する</p> <p>24時間緊急体制の連携をもとに予測した対応ができる</p> <p>コロナ禍で地域住民・関係機関との連携の工夫を図る</p> <p>清掃活動を通じて地域へのさらなる認知度の向上を図る</p>
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<p>多職種連携し胃瘻注入から経口摂取への取り組み実績もあった。</p> <p>移送中におけるマニュアル強化が図れ予防ができた。</p> <p>報酬改定への利用者家族への説明と同意も円滑にでき、評価ツールに繋がられている。</p>	<p>利用者の重症化・終末期においても本人・家族が不安なく安楽に過ごせるよう医療と介護の密な連携でタイムリーに状態把握ができる体制作りを強化する</p>	

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>I 事業運営の評価 [適切な事業運営]</b>							
<b>(1) 理念等の明確化</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</li> <li>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</li> <li>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</li> </ul>
<b>(2) 人材の育成</b>							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ でき ている	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</li> <li>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</li> <li>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</li> </ul>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b></p> <p>目標設定などを掲げて各自の研修計画を作成している</p> <p>面談の回数が少ない</p> <p>勉強会を定期的に行われている</p>					
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b></p> <p>ZOOM 研修などハイブリット研修受講できている。</p> <p>定期的な研修・自己研修が行われている。</p> <p>研修を受ける際の勤務調整等行ってもらえた。</p> <p>各個人研修に参加し技術向上の機会を確保している。</p> <p>月 1 回研修を行い資料に目を通したり、機会を作っている。</p> <p>職員研修を毎月実施しており、専門技術の向上に努めている。</p> <p>法人外の研修も積極的に参加出来ているが、今年度は中止になることも多かった。</p>					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</li> </ul>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b></p> <p>介入時等会議を開き、意思統一を図るようにした。</p> <p>メール等含め緊急な内容に応じて対応できている。</p> <p>情報の更新や、伝達事項は密に出来ている。</p> <p>メールやタブレット等を活用し情報の交換が行われている。</p> <p>「利用者カンファレンス」について月 1 回、議題を集め話し合いを行っている。</p> <p>定期的なカンファレンス以外でも、いつでも話し合いが出来る環境にあると思う。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
<b>(3) 組織体制の構築</b>							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		●				<p>✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>            運営推進会議が実施出来ていない(コロナ禍の為)が、活動状況報告を文書にて直接配布と聞き取り実施。            内要望・助言に対しての対応を職員が統一して行えるよう指示がある。</p>					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		●				<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>            労務管理体制を変更し、残業等の負担軽減が図られている。            精神的に疲れているスタッフを見たことがあるが、人員は少ないものの何かあったら相談できる環境が出来ている。            業務改善が出来るような内容を挙げ改善できるよう意見を出し合い努めている。            一人一人に配慮しているが、急な変更も多かった。</p>					



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(4) 情報提供・共有のための基盤整備</b>							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		●			<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>	
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>            ネットワーク環境が整備されており、タイムリーに情報共有できている。            退院時カンファ、入院時の情報提供もなされている。            毎月利用者状況等、各担当で情報更新は出来ている。            迅速に必要な時にはスタッフ間声掛けをしている。            日々の申し送りや職員間の情報共有を実施(全体メールでの確認も行う)            医師・看護師・ケアマネ・介護士が連携をしっかりと取れており共有が出来ている            利用者様の状態変化等、迅速に情報共有されている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(5) 安全管理の徹底</b>							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		●				<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 速やかにインシデント報告ができ、自己報告内容を分析し職員間共有している。 夜間不審者に対し、対策案が挙げたが、まだ取り組まれていない。 マニュアルがある。研修の機会を設け周知している。 個別の安全マニュアル作成</p>					
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		●				<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</p>
		<p><b>[具体的な状況・取組内容]</b> 本年度は災害時要援護者基本情報で情報共有ができるようになった。 BCP の策定を繰り返し見直している。 マニュアルや訓練等もあるので出来ていると思う。 防災訓練や研修を行うことで、もし災害が起きた時の対策を周知出来ている。 連絡先のリスト作成</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>II サービス提供等の評価</b>							
<b>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</b>							
<b>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</b>							
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</li> <li>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります</li> </ul>
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		●				<p>✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます</p>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b>            体調変化時など家族との連絡がとれている。            本人・利用者のニーズ等を把握し、課題分析にて目標を立て、達成に向けた計画を作成している。            計画書はご家族も目を通され、納得した内容でケアを実施している。            ご利用者様と家族の考えが違うことがあるが、把握し検討している。</p>					
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		●			回復や工場は難しいが維持はでききるとの思いが伝わります。	<p>✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
		<p><b>【具体的な状況・取組内容】</b>            利用者の出来る事、取り組める事が増えることで意欲向上に向けた計画を作成している。            回復や向上は難しいが、維持は出来るように利用者一人一人に合った計画が作成されている。</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</li> </ul>
<b>(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</li> <li>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</li> </ul>
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> それぞれの役割分担がある程度できておりサービス提供を図れている。					
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 普段声掛けを行ったり、周知できるよう申し送りやメールの活用が出来ている。					
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</li> <li>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</li> </ul>
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 定期的な研修が実施されている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>(4)利用者等との情報及び意識の共有</b>							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		●				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 利用時には、サービス内容・特徴等について、本人・家族がしっかりと理解できる様、重要事項やパンフレットを基にわかりやすく説明を行っている。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		●				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 担当者会議の場にて、各担当者より状態・状況・留意点等について説明し利用者・家族の理解を得ている。					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		●				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> 取り扱い方法を尋ねられた時に、自ら扱えるように心がけている。					



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		●				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 出来る限り希望に沿うようにしていると思う。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		●				✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 訪問介護、通い利用にて在宅生活支援を行っている。 利用者又は家族と連絡を取り合い、今後の方針について共有できるように努めている					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		●				✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> 終末期ケアについては都度記録を残すことで情報の共有も出来ている。 医師より家族へ説明して貰い「寿」に記録を残している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
<b>2. 多機関・多職種との連携</b>							
<b>(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供</b>							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</li> </ul>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</li> <li>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</li> </ul>
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	能な体制が構築されている	出来ている。					
<b>(2) 多職種との連携体制の構築</b>							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します</li> <li>✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」</li> <li>✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です</li> </ul>
<b>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画</b>							
<b>(1) 地域への積極的な情報発信及び提案</b>							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		ている。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です</li> <li>✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。</li> <li>✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます</li> </ul>
<b>(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮</b>							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</li> <li>✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	●					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている				●		<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</li> </ul>
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	●					<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</li> <li>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</li> <li>✓ 「あまりできていない」～「よく</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	おおよそ でき てい る	あまりで きてい ない	全く でき てい ない		
							できている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<b>(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画</b>							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</li> <li>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</li> </ul>
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します</li> <li>✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます</li> <li>✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます</li> <li>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</li> </ul>
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		●				<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</li> <li>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整え</li> </ul>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							ていくなどの役割も期待されま す ✓ そのような取組をしたことがな い場合は、「全くできていない」
番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
<b>Ⅲ 結果評価</b>							
① 計画目標の達成							
42	○ サービスの導入により、利用 者ごとの計画目標が達成さ れている	1. ほぼ全ての利用者について、達成され ている ② 利用者の2/3くらいについて、達成さ れている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成さ れている 4. 利用者の1/3には満たない					✓ 「計画目標の達成」について、評価 します
		<b>[具体的な状況・取組内容]</b> 途中、急変等で達成できないこともある 各々ご利用者様の個別計画に合わせ、実 施中である。					
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感							
43	○ サービスの導入により、利用 者およびその家族等におい て、医療が必要な状況下にお いての在宅での療養生活の	1. ほぼ全ての利用者について、達成され ている ② 利用者の2/3くらいについて、達成さ れている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成さ					✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用 者およびその家族等に対し、サービ スの提供により実現された「医療が 必要な状況下においての、在宅での



番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	継続に対し、安心感が得られている	<p>れている 4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>            コロナ対応での面会制限時も、MCS等使用し、細めな対応あり            安心できるように丁寧な説明、理解を心掛けている</p>					療養生活の継続に対する安心感」について、評価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている            ② 利用者の2/3くらいについて、達成されている            3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている            4. 利用者の1/3には満たない            5. 看取りの希望者はいない</p> <p><b>[具体的な状況・取組内容]</b>            適宜、医師・CMより病状、状態の説明ありパンフレットを用いて、具体的に説明することで安心してもらえるよう心がけている            家族や利用者の意思を尊重し取り組んでいる。</p>					<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>